



2023年度 国立音楽大学附属高等学校音楽科

ガイド

1. 本校について

・自由・自主・自律

本校の教育理念は「自由」「自主」「自律」。多様な価値観を受け入れ、人と人との結びつきを大切にする校風の中で生徒たちは他者を思いやり、行動に責任を持った上で自由に自己表現をすることを日々考えています。制服がないのも自己表現の一環としてとらえています。また、個々の専攻を最優先にしながらも、過度な競争意識や個人主義に陥らないのも本校の特長です。生徒たちは自由の意味を考えながらのびのびと学校生活を送っています。

・アンサンブルのくにたち

アンサンブルはお互いの演奏を聴き合う、認め合う、意見を出し合うことではじめて成立します。アンサンブルにおいて自己主張が強すぎてうまくいきません。かといって主張がなければ新しいものは生まれません。時にはぶつかり合うことで全く新しい発想が生まれる場合もあります。アンサンブルによって「人間力」を養うための協調性、主体性、コミュニケーション能力、創造力、発想力が身につきます。KUNION では日常の中にアンサンブルを体験する機会が多く、社会に貢献する人材を育てるために役立っています。

2. 時程

KUNION は1年間を2つに分ける二期制の学校です。学科の定期試験は前期試験・後期中間試験・後期期末試験の年3回実施します。また実技試験は前期・後期の2回行います。また、週5日制の学校で、土日はお休みです。土曜日は自宅等での実技の練習に充てることを推奨しています。

生徒の登校時間は午前7時50分からとし、午前8時45分までに教室に入ることとしています。朝の月極レッスン室は7時50分から使用できます。遠方から通学する生徒も多いため、1時間目開始時刻は遅めにしています。最終下校は午後6時15分です。

第1時限	8:50 ~ 9:40
第2時限	9:50 ~ 10:40
第3時限	10:50 ~ 11:40
第4時限	11:50 ~ 12:40
昼休み	12:40 ~ 13:25
第5時限	13:25 ~ 14:15
第6時限	14:25 ~ 15:15
第7時限	15:25 ~ 16:15

3. 2023年度入学生対象カリキュラム (変更する場合があります)

1年次																												
必修科目	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	総合的な探求の時間	必修科目 音楽	音楽理論	ソルフェージュ	基礎ソルフェージュ	応用ソルフェージュ	合唱	音楽実技	選択科目 一般・音楽	英語表現Ⅰ	英語会話	ドイツ語Ⅰ	演奏演習音楽理論	副科チェロ・コントラバス※	選択レッスン上級※	声楽基礎※	副科ピアノ※	合奏※	
(20単位)	2	2	2	2	3	2	2	1	3	1	(8単位)	2	2		いずれか1	2	1	(0/3単位)	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2

【予定】

2年次(2024年度)																																															
必修科目	コース共通										演奏・創作コース								総合音楽コース																												
	公共	生物基礎	体育	保健	家庭基礎	選択科目 一般	総合的な探求の時間	現代文Ⅰ	古典Ⅰ	世界史研究	応用数学	選択理科A	英語コミュニケーションⅡ	英語表現Ⅰ	英語会話	ドイツ語Ⅱ	イタリア語Ⅰ	必修科目 音楽	音楽理論	音楽史	鑑賞研究	ソルフェージュ	合唱	音楽実技	アンサンブル	選択科目 音楽	演奏演習音楽理論	基礎ソルフェージュ	応用ソルフェージュ	伴奏法(器楽・声楽)	音楽プログラミング	副科声楽※	副科チェロ・コントラバス※	副科ピアノ※	合奏※	選択レッスン上級※	必修科目 音楽	総合音楽コース特別授業	集中講座	音楽理論	音楽史	鑑賞研究	ソルフェージュ	合唱	音楽実技	音楽プログラミング	選択科目 音楽
(11単位)	2	2	3	1	2	2	2	2	2	1	4	1	1	1	1	(11単位)	3	1	1	2	2	1	1	(0/8単位)	2		いずれか1	1	1	1	1	1	2	1	(10単位)	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	(0/2単位)	1

【予定】

3年次(2025年度)																																																	
必修科目	コース共通										演奏・創作コース								総合音楽コース																														
	体育	情報Ⅰ	選択科目 一般	現代文Ⅱ	古典Ⅱ	日本史研究	歴史探求	音楽で学ぶ社会	応用数学	選択理科B	選択理科C	英語総合	英語会話	ドイツ語Ⅲ	イタリア語Ⅱ	選択家庭	情報Ⅱ	必修科目 音楽	音楽理論	音楽史	演奏研究	ソルフェージュ	音楽実技	アンサンブル	選択科目 音楽	演奏演習音楽理論	音楽理論研究	基礎ソルフェージュ	応用ソルフェージュ	合唱	伴奏法(器楽・声楽)	音楽プログラミング	副科声楽※	副科チェロ・コントラバス※	副科ピアノ※	合奏※	選択レッスン上級※	アンサンブル上級※	必修科目 音楽	総合音楽コース特別授業	集中講座	音楽理論	音楽史	演奏研究	ソルフェージュ	合唱	音楽実技	音楽プログラミング	選択科目 音楽
(4単位)	2	2	(0/11単位)	2	2	2	1	1	1	1	3	1	1	1	2	2	(8単位)	2	1	1	2	1	1	(0/11単位)	2	2		いずれか1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	(10単位)	1	1	1	1	1	1	2	1	1	(0/2単位)	1

※=入学型・専攻により、必修または履修可能な科目。

4. 音楽科の特徴

「探求」から「表現」へ♪

2023年度入学生より、「演奏・創作コース」と「総合音楽コース」の2つのコースから選べるようになりました。

【音楽理論とソルフェージュ】

音楽理論、ソルフェージュは音楽を学ぶにあたって重要な基礎科目となります。これらの授業と音楽実技（レッスン）は相互の関係にあると考えています。音楽に関する授業は、その全てが自身の演奏につなげるための基礎演習となります。その基礎演習部分の経験年数などの違いは、授業のクラスを習熟度別に編成することで対応しています。

1年次の授業では西洋のバロック・古典時代の作品を中心に扱い、楽譜の「読み方」や「きまり」から学び始めます。2年次より各コースの特色を活かした取り組みとなりますが3年間を通して、国立音楽大学への進学に向け基礎・基本的な学びを構築します。音楽理論とソルフェージュで培った力が、それぞれの音楽表現へ繋がっていくような学びが用意されています。

・音楽理論〈演奏・創作コース 総合音楽コース 必修1～3年〉

〈音楽理論 ⇒ 楽典、古典的和声学の基礎を学ぶことから始めます〉

～音楽の設計図（和声や楽曲構造）の見方・書き方の習得を通して作品への理解を深める～

→楽譜に書かれた「作曲家からのメッセージ」を読み解き演奏につなげることを目指します。

1. 限られた時間の中で完成度の高い読譜・記譜を身に付ける。
2. 楽曲分析を通して、楽曲に対する多角的なアプローチを学ぶ。
3. 理論の裏付けに基づいた演奏表現を主体的に作り上げるスキルを高める。

〈習熟度別に展開〉

音楽理論は1学年を4～5のグレードに分けて行っています。（年度の途中で、試験結果によりグレードの入れ替えを行います。）

学年ごとの主な学習テーマは下記のとおりです。（2023年度入学生対象）

学年	主な学習テーマ（音楽の形式・創作含む）
1年	楽典の確認、音楽の骨組みから和声の基礎を学ぶ （2・3部形式） / （変奏曲）
2年	和声の習得と対位法的作品の楽曲分析 （ソナタ形式とインヴェンション）
3年	対位法の基礎・和声のまとめ

・ソルフェージュ〈演奏・創作コース 総合音楽コース 必修1～3年〉

「グレードソルフェージュ」 *クラスは聴音の習熟度により前期・後期入れ替え*

聴音（書き取り）の習熟度別に、1学年を4～5のグレードに分けて行っています。

音楽理論と同様、グレードクラスは学ぶ内容に差異はありません。そのグレードに合った学習方法でじっくりと学ぶことができます。授業は一人1台分、クラビノーバが設置された音楽室と通常の音楽室を使います。

〈演習内容と効果〉

聴音（書き取り）	音楽を聴き取り、限られた時間内で正確に記譜します。 →読譜（譜読み）が短縮されていくことにつながります。
視唱・視奏	楽譜を見て歌う・演奏することです。 →演奏表現につなげる情報処理能力を高めます。

授業で扱う内容： クレ(音部記号)読み、複数のクレ変換読み、リズム付きクレ読み、スコアリーディング
伴奏付け、リズム練習、リズム聴音、楽器聴音、旋律聴音、複旋律聴音、和音聴音など

「選択ソルフェージュ基礎／応用」〈演奏・創作コース 総合音楽コース 必修選択1年〉

1年次は聴音（書き取り）による習熟度別に、クラスに分けて行っています。年度途中での入れ替えはありません。授業内容はグレードソルフェージュと似ていますが、訓練のみに留まることなく、レベルに合わせてより一層濃い内容を、時間をかけて学ぶことができます。2・3年次は選択科目となり、レベルに関係なく受講したい授業を受けることができます。

通常の音楽室の他、一人1台のクラビノーバが設置された音楽室を使用します。

グレードクラスで学ぶ内容に差異はありません。グレードが上のクラスになるにつれ、短い時間内での反応が求められたり、応用的な内容を追究したりしていくこととなります。聴取・歌唱・演奏等を交えながら、理論と実践の双方から学ぶことができます。

・音楽実技（レッスン）〈演奏・創作コース〉

専攻は週1回50分の個人レッスン、ピアノ専攻以外は副科ピアノのレッスンが週1回あります。一人ひとりに合ったきめ細やかなレッスンを心がけています。ピアノ専攻は附属中学校を含め12段階のグレード制を導入し、各自の得意分野を伸ばすシステムになっています。生徒は、好きな作曲家や作品をそれぞれの感性和理論の上に演奏しています。弦楽器・ピアノ専攻は、スケールやアルペジオなどの基礎を確かなものとするため、複数の教員によるトライアルを年に数回行います。

声楽・管楽器・打楽器専攻は生徒それぞれの身体の特徴や骨格を考慮しながら、負担の少ない発声法・奏法を取り入れ、一過性ではない将来を見据えたテクニックを身につけていきます。

前期（1,2年管打楽器専攻・1年作曲専攻を除く）および後期の年2回、実技試験が行われます。生徒はこの試験のために毎日努力を続け、教員の前で演奏する緊張感・達成感、時には挫折感を味わうこともありますが、この3年間の経験が社会に出た時に大いに役立っています。

・ **音楽実技（レッスン）**〈総合音楽コース〉

週1回50分のレッスンを行います。内容は、個人レッスンのピアノ実技とグループレッスンの声楽基礎を合わせて50分となります。今までピアノや声楽のレッスンを受けたことがなくても、各々のレベルに合わせた指導が行われますので、安心して受講することができます。3年間かけて、国立音楽大学に進学できるレベルに到達できるよう、個々に合わせたカリキュラムが準備されています。

・ **選択レッスン上級**〈演奏・創作コース〉

実技試験においての成績上位者・コンクール上位入賞者が対象となり、週1回の通常レッスンの他に、希望する教員（国立音楽大学教員も可）のレッスンをさらに1時間受けることができます。受講対象者は学校からお声かけをします。

・ **バロックダンス**〈演奏・創作コース〉

2年生の体育で行うダンスは、バロック時代のリズム、テンポ、舞踊形式に合わせて踊る授業です。リトミック専門の教員が、立ち姿から踊りのパターンまでを丁寧に教えます。生徒は苦勞しながらも自主的に練習し、授業の最後に行う発表会で良い演技が出来るよう努力しています。

・ **モダンダンス**〈総合音楽コース〉

バロックダンスと同様、2年生の体育で行います。基本的な身体の使い方やステップを学ぶことで体幹を鍛えます。様々な振り付けから、身のこなしや自己表現力の向上につなげます。また体幹を鍛えることで、日頃から美しい姿勢を保つことができます。

・ **鑑賞研究**〈演奏・創作コース 総合音楽コース〉

2年次に履修する鑑賞研究は、古典派・ロマン派等のピアノ作品、弦管打楽器によるアンサンブル、声楽アンサンブルに分かれて行います。作曲家や作品の時代背景などを調べ、生徒たちが演奏し、それに対してディスカッションをしていく授業です。譜面に記載されている細かなところまで追究し、どのように演奏すれば作曲家の意図に限りなく近くことができるか、自分たちの感性と合わせて、活発な意見が飛び交っています。

・ **合唱**〈演奏・創作コース1・2年必修、総合音楽コース1~3年必修〉

週2時間の授業では、各クラスや各学年に分かれ、一流の教員による熱氣溢れる指導が行われています。合唱もアンサンブル。ここでも音高の音楽科ならではの団結力・チームワークが発揮され、本校において最も伝統のある演奏会「くにたち音楽会」で披露されます。また合唱祭では、生徒がお互いに意見を出し合い、指揮・ピアノ伴奏も自分たちで行います。生徒のみで作り上げた演奏には、毎年個性が溢れています。

・ **合奏**〈演奏・創作コース〉

弦管打楽器の生徒は週1回、必修となります。合奏はアンサンブルの集大成であり、指揮者・弦楽器・管打楽器の教員のもと、年2回の演奏会を目標に行っています。70名~80名の合奏においては、仲間と合わせることの楽しさ、難しさ、達成感を味わうことができます。管弦楽、吹奏楽に分かれての授業も行われます。団体活動という点においても社会勉強に大変役立っています。作曲専攻の生徒は、副科楽器（チェロ・コントラバス）での受講を希望することができます。

・演奏演習音楽理論 (自由選択)

主に楽曲分析を通して、楽譜を正確に読み取る力を高めると同時に、作曲家の意図や時代背景、演奏についての探究や追究を行います。意見の交換やディスカッションをすることもあります。

楽曲分析は、作品全体の構造や調性・和声の流れ、特徴的な音型やリズムを確認することで、楽譜を立体的に読み取ることを目指します。最終的には自身の演奏につなげるような考え・方法をまとめます。音楽室は毎回一人1台のクラビノーバを使用できる音楽室を使用し、学んだことをその場で確かめることができる環境が用意されています。

・音楽プログラミング

国立音楽大学の演奏・創作学科 コンピュータ音楽専修の教員による授業です。これからの社会を生き抜くために役立つプログラミングを、音楽を通して学びます。

基本的な操作をしっかりと学び、「コンピュータと音楽」というツールで社会貢献できる人材を育てていきます。

その他、総合音楽コース独自の授業として、国立音楽大学の教員が1年間を通して行う「総合音楽コース特別授業」があります。2年次から、本学の音楽文化教育学科の教員が「音楽教育」「音楽情報」「音楽療法」「幼児教育」の分野別に授業を行います。

一年間をかけて音楽関係の様々な分野を知り、この先の自分が探究していきたいことを発見することができます。

5. 教育システム

(1) NOLTY スコラ手帳

各自の勉強やレッスン内容・次回までの目標・練習方法などを記録し、日常的に使用することで、日々の振り返りを行い計画的に学習することを目的としています。試験などの日程や範囲、いつまでに何を準備しておくかなども記入し、各自で工夫を重ねながら有効活用しています。

(2) iPad

2022年4月入学生より学校教育におけるICT「Information and Communication Technology: 情報通信技術」を活用した学びを実践するための一環として、生徒一人に一台のiPad導入を開始しました。勉強する時に教科書や筆記用具が必要なと同様に、iPadも授業など皆さんの学びに欠かせない文房具の一つです。iPadの活用自体が目的ではなく、手段や道具の一つとして生徒たちの学びや創造力を育んでいくことを目指しています。

(3) 海外研修

本校では 2018 年度より、異文化体験やコミュニケーションスキルアップを目的とした希望者対象の海外研修を実施しています。2018 年度はニュージーランド、2019 年度はカナダへの短期研修を行いました。2019 年 8 月に行った 10 日間の夏期カナダ研修では、語学学校での研修やホームステイ、キャンプや現地の方々へのインタビュー企画など充実した時間を過ごしました。英語でコミュニケーションが取れた喜びや、異なる文化を受け入れる経験を通して大きく成長しました。

2021 年度は夏休みに 3 日間、国内の留学生と校内で対面による国際交流 (Cross Cultural Camp) を行いました。2022 年度も同様に、校内にて Cross Cultural Camp を行う予定です。また 2022 年度より希望者を対象 (校内選考あり) に、オーストラリア・ニュージーランドへのターム留学を開始します。

(4) 留学制度

高校音楽科では姉妹校であるオーストリア・リンツ音楽高校へ 3 ヶ月間のターム留学を実施しています。毎年 1 名が参加することができ、これまでに 5 名が留学しています。慣れないドイツ語に苦戦しながらも、音楽漬けの充実した日々を送っています。

(5) 大学進学実績 (2021 年度)

国立音楽大学 51 名	他大学 (音楽系) 15 名	専門学校 1 名
演奏・創作学科 声楽専修 14 名 鍵盤楽器専修 (ピアノ) 15 名 鍵盤楽器専修 (電子オルガン) 1 名 弦管打楽器専修 8 名 ジャズ専修 2 名 作曲専修 1 名 コンピュータ音楽専修 3 名	東京藝術大学 1 名 東京学芸大学 1 名 都留文科大学 1 名 日本大学芸術学部 1 名 桐朋学園大学 3 名 東京音楽大学 6 名 昭和音楽大学 1 名 洗足学園音楽大学 1 名	尚美ミュージックカレッジ 1 名
音楽文化教育学科 音楽文化教育専攻 音楽教育専修 6 名 音楽情報専修 1 名	他大学 (一般) 4 名 中央大学 1 名 東洋大学 1 名 昭和女子大学 1 名 目白大学 1 名	その他 2 名

6. 感性と知性を育む教育

(1) 様々な演奏会

春 ♪ 新入生歓迎演奏会 (国立音楽大学講堂)

実技試験成績優秀者の演奏・作品発表で新1年生を歓迎します。附属中学校との合同演奏会ですので、中学2、3年生の演奏も鑑賞します。オルガン専攻の生徒が演奏する年度は、音大講堂の正面に置かれているパイプオルガンの演奏を聞くことができます。

夏 ♪ オーケストラ・ソリストコンサート (国立音楽大学講堂)

弦楽器、管楽器、打楽器の専攻生および作曲専攻生の合奏履修希望生による演奏会です。

実技試験で選ばれたソリストの生徒がオーケストラと共演します。演奏される作品は、聞き覚えのある作品から現代曲までさまざまです。編成には珍しい楽器が入ることがあり、一見楽器に見えないような面白い打楽器なども登場します。

また、演奏会のプログラムは生徒が中心となって作成します。作曲家やその作品について調べる他、演奏者としての考えを記すこともあります。東洋一の蔵書数を誇る国立音楽大学の図書館の資料を参考にすることもあります。

秋 ♪ オーケストラ・定期演奏会 (国立音楽大学講堂)

合奏授業の成果発表とその鑑賞が目的です。オーケストラは管弦楽と訳されますが、この定期演奏会ではその管弦楽の他、吹奏楽による演奏もあります。吹奏楽では、吹奏楽のためのオリジナル作品や管弦楽作品を編曲したものを始め、NHK大河ドラマのテーマ曲などを演奏した年もあります。迫力ある演奏から、生徒の成長を感じる演奏会です。

冬 ♪ くにたち音楽会《ソロ・アンサンブルの部・合唱の部》(国立音楽大学講堂)

学校創立以来、毎年12月中旬に授業の成果発表として開催しています。PTAが主催となり、保護者と教員が協力して運営しています。演奏会は2日間に分かれ、附属中学校と合同で行われます。1日目のソロ・アンサンブルの部は、中学生は実技の成績上位者から選出されます。高校生はオーディション形式で選出されるので、学年の枠を超えて出演のチャンスがあります。独奏の他、室内楽の演奏もあります。当日は、演奏者が綴る「演奏の前に」と称したプログラムノートをプログラムと一緒に配布します。

2日目の合唱の部は、合唱の授業の集大成を披露する演奏会です。女子生徒は学年やクラス毎の合唱に、男子生徒は混声合唱に参加します。

♪卒業演奏会（国立音楽大学講堂）

3年生の後期実技試験の成績優秀者の演奏・作品発表を音楽科の生徒全員で鑑賞します。

- ◎ 各クラス2名の演奏会委員と、ステージセッティングを手伝う男子生徒が教員と協力して演奏会の準備・運営を行っています。卒業演奏会は1、2年生の演奏会委員で運営します。
- ◎ 上記の活動を通して、演奏会やライブの企画、運営等に興味を持ち、マネージメントを学びのひとつとして進学先を考える生徒もいます。

学校主催の演奏会での服装は、決められたドレスコードで出演することになっており、演奏会ごとに学校から案内しています。

（2）芸術鑑賞（2021年度実績）

① サントリーホールとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が提供する青少年プログラム

このプログラムは演奏会の裏舞台、プロの演奏家たちの公開リハーサルを目の当たりにできる貴重な体験です。本番とはまた一味違う緊張感が漂うリハーサルの見学は大変勉強になります。生徒たちはこの機会を非常に楽しみにしています。

② オペラ鑑賞（新国立劇場・オペラパレス）

マチネ公演の歌劇を一般のお客様と共に鑑賞します。鑑賞・観劇にふさわしいマナーについて学び、事前学習では鑑賞する歌劇について勉強します。

オーケストラピットの演奏者や舞台の出演者には本校の卒業生も多く、プロとして活躍する先輩の姿、本物に触れる貴重な体験は感性を磨き、知性を育む場となっています。

（3）海外修学旅行

2020年度の修学旅行は海外（台湾）へ行く予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、実施を断念しました。台湾は本校と関わりの深い国の1つです。台湾はクラシックの水準が高く、多くの本校卒業生が多岐にわたる学校・団体等で指導をしています。特に、卒業生が指導にあっている台南市大成国民中学オーケストラとは交流が深く、来日された際には本校生徒との合同演奏も行いました。演奏だけにとどまらず、台湾の歴史・文化に触れ、現地の方々とのコミュニケーションを取りながら交流をすることを目的としています。この経験を契機として、生徒たちが海外で演奏や発表を積極的に発信していくことを期待しています。

（4）カウンセラー

本校には、臨床心理士・公認心理師の資格を持つ専任のスクールカウンセラーがおり、平日は毎日相談できる相談体制を整えています。生徒・保護者の方のご相談のみならず、教員と連携しながら、問題が深刻化する前の予防的対応にも力を入れています。豊かな心の醸成に貢献できるよう、自他の感情を深く理解し、共感性や表現力を高め、周囲との調和（アンサンブル）を実現できるよう、カウンセリング活動を行っています。

7. 学校生活

(1) 携帯電話・スマートフォンに関するルール

本校では、学校内での携帯電話・スマートフォンの使用を禁止しています。学校に入る前に電源を切り、施錠ができる個人ロッカーにて各自で保管するルールになっています。保護者の方から生徒本人へ緊急に連絡がある場合には、学校へご連絡いただくようお願いしています。

(2) ご家庭との連絡

保護者・生徒の皆様へ学校生活の中で緊急を要する事項について、迅速かつ正確に連絡するために緊急時のメール配信を導入しています。1家庭で3件までのメールアドレスを登録することができます。通信にかかわるセキュリティは、世界的に信頼のある、デジサート（旧ベリサイン）のSSLを利用しています。

【緊急時にメール配信する事項】

- ・ 学校行事における雨天中止や延期、時程変更等
- ・ 天災、交通災害、伝染性の疾患等による臨時休校、生徒を学校に留め置く場合等
- ・ 緊急を要する不審者情報
- ・ その他

(3) 学校安全について

生徒たちが安心して学校生活を送るために、本校では安全対策を強化しています。

- ① 警備員を配置して生徒の安全確保に努めています。また、保護者の皆様が校内にいらっしゃる場合には、保護者証の着用をお願いしております。
- ② 校内にはAED（自動体外式除細動器）を3台設置し、不慮の事故にも備えています。また、教職員を対象にAED講習・救命救急講習を定期的に行っています。
- ③ 全ての校舎で最新の耐震基準をクリアしています。
- ④ 非常時のために、全生徒分の非常食・飲料水・非常用生活用品を備蓄しています。
- ⑤ 大地震などの災害が発生した際には、私立学校の被災状況や生徒の安否情報を、ラジオで放送することになっています。パソコンやスマートフォンでも聴くことができます（ニッポン放送 AM1242/FM93）。
- ⑥ 東京の私立学校間では、登下校時の緊急避難校ネットワークがあります。登下校の時間帯に震災等が発生し、交通機関がストップして学校や自宅にたどり着けなくなった場合、近くの私立小中高校に避難することができます。水や食料・トイレなどを提供するほか、専用のWebシステムを使い、学校間で生徒の所在を伝達し合うことができます。電話がつながりにくい状況でも安心です。
- ⑦ 学校管理下における生徒の怪我や病気に備え、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済契約を結んでいます。

(4) 昼食

本校には学食はありませんが、お弁当を持参するほか、登校時に購入したり、学内の売店で購入したりする生徒もいます。学内の売店では、パンやおにぎりなどの軽食を購入することができます。また、事前注文が必要となりますが、お弁当を購入することもできます。お弁当は数種類の中から選ぶことができ、日替わりのお弁当もあります。注文したお弁当は、昼休みに3号館1階生徒ホールで受け取ることができます。数に限りはありますが、当日現金でお弁当等を購入することもできます。

(5) クラブ活動

クラブ活動への入部は強制ではありません。生徒の個性に応じた活動を通じて自主的精神を養い、学校生活の充実向上をはかることを目的として行っています。

文化系：合唱同好会☆・ブラスバンド部・オペラ研究同好会・茶道同好会・JAZZ 同好会・
パフォーミングアーツ部

運動系：ダンス部・バスケットボール同好会☆・バドミントン同好会◎・アウトドア部

[☆：普通科と合同で活動している部活 ◎：中学・普通科と合同で活動している部活]

(6) アフタースクール (ジュニア・ミュージック・アトリエ)

コースや専攻を変えて引き続き本校・本学で学ぶことを希望する中学校・高校音楽科生徒、および実技レッスンを希望する高校普通科の生徒を対象に、課外でレッスンを行う制度です。指導には本校レッスン教員、経験豊富な本校推薦講師があたり、個々の生徒の特質や希望にそって良質なレッスンを実施します。

<対象>

中学

- ・総合表現コースの生徒で、演奏・創作コースへの変更を希望する生徒
- ・演奏・創作コースの生徒で、主楽器の変更を希望する生徒

高校普通科

- ・主に国立音楽大学への進学を希望する生徒

高校音楽科

- ・総合音楽コースの生徒で、演奏・創作コースへの変更を希望する生徒
- ・演奏・創作コースの生徒で、専攻の変更を希望する生徒

<指導スタッフ>

- ・本校レッスン教員または本校が推薦する講師

<高校音楽科生徒への内容>

- ・ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器、作曲/ 他
- ・50分の個人レッスンで、月3回程度(年間30回)
- ・平日放課後または土曜日に実施

<料金>

- ・月額¥11,000 (年額¥132,000)

8. 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

(1) 健康観察

生徒及びすべての教職員は平日の朝 8 時 30 分までに jmobile を使用し、朝の検温結果と体調報告を学校に送信します。毎日の送信結果を管理し、体調の変化を観察しています。また、登校し校内に入る前にも非接触型の機械で検温をしています。担任をはじめ教員は生徒の様子に目を向け、体調の変化がみられる場合は養護教諭と連携し、素早く対応ができるように心がけています。

(2) 消毒

昇降口や各教室前をはじめ、校内の約 80 箇所に消毒液を設置しています。教員は放課後、HR 教室の机や椅子、手すりやドアなど生徒が触れる場所を消毒しています。教室以外の場所で授業を受けた時は、生徒自身が使用したものを消毒しています。直接消毒ができない備品を使用する時には、使用前後に手洗いと手指消毒をしています。また、階段やお手洗いなどの共用部は用務員が毎日清掃と消毒を行っています。

(3) 換気

密閉した空間を作らないように教室のドアを開けたり、外に続く窓を開けたりして空気を入れ替えています。外の空気によって室温が変化しやすい環境の中では、エアコンを使用して、熱中症などにならないように気をつけています。レッスン室のように一定時間ドアを閉じる場所では、常時換気システムを使用しています。そして、休み時間毎にドアを全開にして空気を入れ替えています。

(4) 飲食

昼食は教室内で、生徒全員が同じ方を向き、黙食をしています。マスクを外す時間が長くなる昼食時は各クラス教員が立ち会い、感染リスクを高めないように指導しています。水分補給の機会が増える体育の授業では、マスクを外すときには周り十分に距離をとり、会話をしないように教員が声掛けをしています。

(5) マスクの着用

生徒及びすべての教職員は基本的にはマスクを着用し、学校生活を送っています。マスク着用が困難になる管楽器や声楽のレッスンでは、指導者と生徒の間にパーティションを設置しています。同じようにオーケストラの授業においても管楽器の生徒と生徒の間にパーティションを置いて授業を行っています。